

2013年1月号 NO.57 (継続202号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 http://www.forest-kanagawa.jp 発行人 久保 重明 〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成25年度(円年)(西暦2013年)年頭にあたって



新年明けましておめでとうございます。

< 理事長 久保重明 >

年々活動要請が増える中、昨年も皆様には積極的に活動に参加して頂き多くのボランティア活動 を支援することができました。皆様に深く感謝申し上げます。

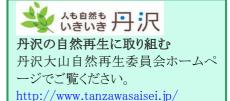
今年も一昨年と同様、素晴らしいニュースや明るく元気づけられるものがありました。 まず、素晴らしいニュースとしては神奈川新聞社・神奈川新聞厚生文化事業団から神奈川地域社会 事業賞を頂いたことで、12月1日相生馬車道本店で表彰式が執り行われました。我々の会が創立さ れたのは平成4年で、今年で20年経過した訳で、人に例えればちょうど成人式を迎え、これからより 社会に対する責任を自覚し、行動する立場に立ったことになりました。このような時にタイミングよく素 晴らしい賞を頂いたことは、これまでの日頃の会の活動が評価されたことであり、これを1つのステッ プとし、さらなる飛躍を遂げたいものと思っております。あらためて新年に際して、この喜びを皆様と 共に分かち合いましょう。

もう1つのニュースは丹沢大山自然再生委員会に7月4日付で入会が認められたことです。構成 委員は名称の通り丹沢大山の自然に関心のある民間、学識経験者そして行政関係者、総勢 42 名 からなり、また環境省や県もオブザーバーとして参加しております。委員の 70%近くが民間と学識経 験者で構成されており、自由な発想で自然再生に取り組むことが要求されております。これまでの 我々の活動は派遣されるという受け身の活動が多く、丹沢大山の自然再生をどうするかという大きな 命題に自主的に取り組むことは少なかったかと思います。これからは委員の方々と同じ目的に向か い歩調を合わせ、その中で考え、提案し、自ら行動することが必要となります。日頃我々の活動の中 で、丹沢大山の自然再生に役立つことが見出せれば積極的に提案し、行動して行きましょう。

最後になりましたが、今年の皆様方のご健勝とご活躍をお祈り致します。



神奈川地域社会事業賞受賞に ついては次ページもご覧ください。



士 早朝の足柄峠より 広報部 鈴木松弘

"第25回神奈川地域社会事業賞"を受賞しました。

写真提供 · 神奈川新聞社 様





- ・賞状の授与
- ・受賞のお礼と挨拶 久保理事長 (左より村井理事、久保理事長、森本副理事長)

『神奈川地域社会事業賞の受賞について』

< 事業企画委員会 森本 正信 >

第25回神奈川地域社会事業賞の表彰式が、12月1日横浜市中区で開かれ、私どもの会が、はからずも受賞の栄に浴することが出来、表彰状、副賞の賞金とクリスタルの盾をいただきました。(全体では、事業賞4・奨励賞2計6団体が表彰)

この神奈川地域社会事業賞は、神奈川新聞社と神奈川新聞厚生文化事業団の主催事業で、環境や福祉、文化などの各分野で活動している市民団体の社会貢献をたたえるため、1988年に始まりました。今年は40団体の応募があったそうです。

私どもの会は、過去2回挑戦してきましたが(いずれも選外)、3度目の正直(?)で、受賞となりました。今年は、「グッズマイスター(GM)制度によるファンドレイジング(資金開拓・調達)について」という、独自事業の切り口での応募が、評価されたようです。

私は以前から、身の丈=イーブンの評価は受けたいものなのに、本会はどうもおとなしいというのか、あまりプレスにも採り上げられないし、まあ、山(森)は解(わか)ってくれているからいいか・・、と思っていました。今回、地道な積み重ねにより、夢が叶いました。

選考に当たっては、周辺取材など関係先各位のご尽力も大きいと思います。感謝の気持を忘れずに、この受賞を励みとして、皆で会の存在感をより大きくし、可能な限り、その成果を、地域や社会に還元していきたいものと思います。ありがとうございました。

かながわ森林インストラクターの会は 支援団体としても取組んでいます。 全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。



受賞についてはカナコロ(神奈川新聞社) ホームページでもご覧いただけます。

http://news.kanaloco.jp/localnews/article/ 1210270005/

私の認識

野鳥その105

高橋 恒通

今月のガンカモ目ガンカモ科の野鳥は淡水ガモのヒドリガモ (漢和名:緋鳥鴨、英名: European Wigeon、体長 L=49 cm) についてご案内いたします。

成鳥♂の体色は、額から頭頂部が淡橙黄色で、 それを挟む如く顔から頸は茶褐色です。胸前は褐色で体下面は濁白色、体側面には目立つ白色羽 (小・中雨覆の一部)があります。その白線を挟む様に背面と側面が灰色に見えますが至近距離から、或いは双眼鏡やスコープでよく見ると白色と黒色羽根が細かく規則的に並んでいるのがよく判ります。

背面後部に白色の輪郭線で縁取られた黒色の笹の葉状の羽根も凜とした美しさがあり、黒色の尾羽と下尾筒、その付け根の白色も印象的です。そしてヒドリガモの嘴は♂♀共に先端部が黒色でそれ以外は青灰白色(鉛色)をしています。



これに対して成鳥♀の体色はコガモ、マガモ、オナガガモ、そしてハシビロガモの♀と似た褐色ですが全体的にやゝ濃目です。

ヒドリガモは冬鳥ですが北海道では厳冬期には数 少ないそうです。多くはもう少し暖かい地方へ移動し ている為だと認識しています。

我国での棲息環境は河川、湖沼、池、内湾、海岸などです。また世界地図上での繁殖地域はユーラシア大陸の中~高緯度帯で東はカムチャッカ半島から西はスカンディナビア半島、スコットランド、アイルランドに及んでおります。そして越冬地は極東の日本、中国南部からタイ、ベトナム、インド、地中海沿岸部、南アフリカ大陸のケニアの一部などに至っています。

ヒドリガモの行動様式は、日中は主に湖沼や池の

中央や陸に上がって休息したりしていますが、河川 の流れがゆるやかな処で水面に流れて来る植物の 種子を食べたり、陸上でイネ科の植物の実なども採 食します。

そして夕方になると水田など採食場に移動し、また海岸近くで棲息している個体達は夜、海上に移動して海苔などの海藻類を好んで採食するそうです。

ヒドリガモの鳴声は、♂が口笛の様な発声で"ピュー" "ピュー"と一声づ>区切って鳴き、♀は嗄れた声で"ガッガー"と発声すると参考書に書かれていますが私は今まで確実にヒドリガモの声と思われるのを聞いた記憶はありません。

私の経験ではカモ類の鳴声はカルガモやマガモの"ガッガッ"とコガモの"ピュッ""ピュッ"が多く、それ以外は殆んど聞いていません。

それから体色の説明のところで書きそびれたのですが、ヒドリガモの翼鏡(よくきょう)の色は緑色ですけど滅多に見られないと認識しております。

そして昼間に水辺で休息しているカモの多くが、 嘴(くちばし)を翼の脇に差し込んでいる場面をよく 見かけます。「あれは何をしているのですか?」と探 鳥会の時によく質問されますが、私は鳥類学者では ありませんから真の答ではないかも知れませんが、 「鳥の嘴は人間なら手と歯とセンサーを併せた機能 を有する部位なので保護保温の為では…と認識し ています」と曖昧に返事をしていますが、若しご愛読 の同志で正解を知る方は教えて下さい。

その場面でカモ類は瞬きの如く白目を見せる事がありますが、これは"瞬膜(しゅんまく)"と言われる白色の膜で、双眼鏡で注意深く観ると瞬膜は下から上に移動しているのでチャンスがあれば確認してみて下さい。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥,山渓ハンディ図鑑 7,写真・解説/叶内拓哉,分布図・解説協力/安部直哉,解説(鳴声)/上田秀雄,山と渓谷社(イラスト)広報 大塚 晴子

『 第3回やどりき周辺の山歩き 檜岳(ヒノキダッカ) ダイレクトコース 』

11月18日(日)

< 飯澤 恒 9期 >

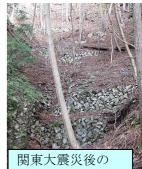
朝が早くやどりき大好きのメンバーばかりだったので寄大橋横駐車場に集合時刻の 30 分前には全員 が揃った。滝澤リーダーが地図を配布しコースの概要を説明してから出発。

Aコースの途中から作業道を22~24年度成長の森へ行き、そこから道を探しながら滝郷沢に降りて堰 堤を捲いて檜岳沢と杓文字沢の出合に出た。杓文字沢の滝を見物してから両方の沢の間の作業道を見 つけて稜線に入った。先ほど見物した滝が下方に見えた。下から見るとさほどの落差には見えなかった

が上から見ると2段になっていてかなりの落差があった。 檜岳沢は径路途中か ら木々の間に何ヶ所か滝が見え隠れしていて急な勾配の沢であることが分かる。 滝澤リーダーは先頭を歩きクマ剥ぎの跡のような動物の痕跡を見つけては立ち 止まって全員で観察。少しの痕跡でも見逃さない観察眼には敬服。

また、大正 12年(1923年)の関東大震災の後、大正 14年から始まったと言う 治山工事の遺構とも言うべき山の急斜面に何段にも築かれた石垣や谷底に敷 かれた石組についても説明があった。

消えかかっている箇所もある作業道を辿って行くと突然きれいに整備された 広い道に出た。県で養成している森林塾生が整備した径路と言うことだった。そ の径路をしばらく辿り、途中から道もあやふやな稜線を一気に頂上に上った。 頂上は見晴らしが悪いので記念撮影だけにして秦野峠の方向に尾根を辿り富 士山や遠く南アルプスを望める展望の良い場所で眺望を楽しみながらお昼。



治山工事の遺構







下山は檜岳方向に戻り、途中から22~24年度成長の森を目指して作業道を 下った。出発時点からペースが速かったので時間に余裕があり、途中この道は何 処に行くのだろうかと崩落した谷に阻まれて進めなくなるまで辿ってみたりして回 り道をしたが、22~24年度成長の森から秦野林道に出て寄大橋横の駐車場に 予定より早めに戻った。

頂上や尾根付近の紅葉は終わっていたが途中は未だ見頃の木々が沢山あり 綺麗だった。また、花には遅い季節ながらリンドウ、季節外れのホタルブクロの花 等を見る事が出来た。

今回は時期的に色々なイベントが多く参加者が少なかっ たが、何か見つけては皆であれこれ意見を交わしわいわい 言いながらの楽しい山行だった。今年度のやどりき周辺の 山歩きは今回で終わり、早くも来年度の山歩きについて、 参加者から下見をしないで皆で地図を見ながら道を探して 歩くような山歩きもしてみたいねと言う要望が出された。森 の案内人をしていると登山者から道のことをよく聞かれる。 それに答えられるように、また、行く度に新たな発見のある やどりき水源林周辺の山についてもっと知りたいと思う。



参加者:滝澤⑤(リーダー)、飯澤⑨(サブリーダー)、辻村⑨、橋本⑩、西出⑫

活動短信

10/20~10/30

投稿頂いた中には、紙面の都 合上、次号以降の掲載になる ものもあります。 予めご了承下さい。

◆ 「ヒノキの間伐と自然観察会」 (株) 荏原製作所

担 24年10月20日(土)10時~15時30分、薄曇り場炒 やどりき水源林

参 荏原製作所社員家族28名(大人19名、子供9名)

スタッフ 荏原製作所

岡野様、総務部岩崎様、看護師足立様

県 内田様、篠原様

/ L山崎⑦、竹島③、伊藤⑦、上宮田⑪

10月の好日20日、リーダー山崎の天突き体操のかけ声勇ましく、活動を開始。本日の参加者は荏原製作所社員の子連れ家族のご一行28名。

午前中のヒノキの間伐には、安全第一を旨に、細心に細心の注意を払う。大人だけの班を一班、家族連れの班二班、計三班の編成で45年は超えているヒノキの間伐に挑戦。受け口と追い口を正確に刻み、ロープの力を借り、一本のヒノキの間伐を達成する。途中、掛り木のロープワークに苦戦する親たちを励ます幼子たちの掛け声が森に響き渡り、感動的場面もありました。お昼にはシカシチュウが提供され昼食に花を添えてくれました。

午後は、リーダーによる「酒匂川水系の水と発電施設」の森林講話、約1時間のBコースの散策(ヤマビルの被害1名)、最後のやどりき沢での水生生物観察はタイムオーバーかと思いきや、子供たちの狙い目とあって、短い時間でしたが予定通り行い、すべての企画が終了したのは午後3時半でした。これも当初の予定通りでした。 荏原製作所様は5年間の水源林パートナーの実績を今年度更新し、向こう5年間、森林再生パートナーとして水源林への協力を継続するとの事。今回のきめ細かな企画は荏原製作所社会貢献グループ長様の熱意があっての事と改めて感じさせられました。

(記 3期 竹島 明)

◆ 高取山・登山しながらの自然観察 逗子市立沼間小学校

日 24年10月22日(日)9時15分~13時、晴れ

景 愛川ふれあいの村~高取山 往復ピストン

参 5年生90名、教師他12名

✓ L村井⑨、高橋③、島岡③、高崎④、堀江④、 伊藤⑦、小沢⑨、松山⑩、永松⑫学校の要望は

- ①森林の働きや周りの動植物に興味を持たせたい。
- ②森林と自分たちとの生活の関係を考えさせる。

私は国土地理院2万5千分の1「上溝」を高取山頂の 展望台で広げコンパスを使用して地図上の記号から見 た針葉樹林や広葉樹林を説明することを試みた。風も強 く長居は出来なかったが、関心持つ児童がたくさんいた のは喜ばしい事だった。

登山コースではスギ・ヒノキの木肌の感触、球果や葉の違い、チヂミザサを取り上げルーペで観察、種の散布の勉強。トリカブトは全草猛毒ですが加工附子として漢方薬として利用され、クズは根を利用してクズ粉や風邪薬の原料の葛根湯になり私たちの生活と密接なつながりがある話など、途中マムシに遭遇したり、丹沢の生い立ちが分かるタマネギ石の説明を聞いたり、この日、子供たちはたくさんの初めてを体験して活動は無事終了した。

(記 9期 村井 正孝)

◆ トラスト緑地周遊イベント (公財)かながわトラストみどり財団

日 24年10月23日(火)9時30分~16時、曇後雨

場 大崎緑地(逗子市)⇒葉山緑地(葉山町)⇒

長者ヶ崎緑地(葉山町)⇒小網代の森緑地(三浦市)

参 成人13名、男6、女7名(申し込み23名)

財 壹崎様 他1名

イ L 有田⑥、高橋③

みどりトラスト会員他一般参加者を、貸上バスで県内各地にあるトラスト緑地を巡り、緑地保全の取り組みを実際に見て貰い、その折に我々インストラクターが植生を中心に自然観察のアシストを行なった。但し、大崎緑地、葉山緑地では傘の出番が少なく順調に運んだが長者ヶ崎緑地では風雨が強くなり、予定していた長者ヶ崎海水浴場から砂浜沿いに徒歩でしおさい公園までの散策は省かれた。バスもしおさい公園に行き潮見亭で昼食となり我々インストラクターの役目はここまでで無事終了した。

午後はバスで小網代の森緑地へ移動し"小網代の森野外野外調整会議"代表で慶応大学教授の岸由二 先生による小網代の森に関する存在意義、保全による 環境への公益性、そしてアカテガニをはじめ、絶滅危 惧種の動植物の多さ、谷戸から小網湾の干潟へと続く やく1800米(メートル)の地形やその絶妙で貴重な位 置関係等に就いて現地を歩き乍(なが)らの解説、質疑 応答があり今日の予定が全て終了。

残念だったのは、荒天の為に省いた散策路に下見 で確認したハマゴウの群落を参加者に観察して貰えな かった事である。

(記 3期 高橋 恒通)

◆ 竹林整備 (株)カナエル

目 24年10月24日(水)9時半~12時半、晴れ

場 県立21世紀の森(マダケの展示林)

参 21名

イ L⑧阿部、⑧野田

前日までの低気圧による不安定な天候も収まり、秋晴れの好天となった。当日の活動は、21世紀の森の「マダケの展示林」の間伐。「マダケの展示林」とはあるが、細いマダケが密生し、なおかつ前年の台風の影響で、倒れた竹、枯れた竹が林のいたるところを覆い、誰でもが手入れの必要性を実感できる場だった。間伐について・方法・鋸の使い方・ハチの対処法などを説明した後、準備体操・写真撮影後、現地へ。参加者は殆どが若い方で、初めての方が多く、慣れない作業だったが、倒れた竹の処理を中心に熱心に竹林の手入れに取り組み、実際の活動時間の2時間はあっという間に過ぎた。もう少しやりたいという気持ちも残しながら、それなりの汗をかき、野外でのボランティア活動の爽快感を味わっていただけたと思う。

(記 8期 阿部 純一)

◆ 「林業体験(間伐)」 横浜市立西富岡小学校

日 24年10月24日(水)10時~13時半、晴れ

場 小田原市久野

参 5年生53名、教師他8名

財 古舘様、籾山様

7 L木本(2) 井出(1) 齋藤(6) 伊藤(7) 杉崎(10)

最後に感想を聞くと、子ども達は満足そうに「楽しか った」と応えた。嬉しい、何が子ども達にそう言わせた のだろう?「間伐体験」この一言に尽きる。 失敗もあっ た。私の班は、選んで取り組んだ木は、10cm ほどの子 ども達にはちょっと太い木だった。子ども達が全員で交 代切りして3周して、時間内に1本切るのがやっとだっ た。その後のコースター作成も木が太過ぎて、時間内 に切りきれない子どもも出たほどだった。切りきれなか った子どもには、私が臨機応変に倒木の先っちょの 方を、長さ10cm に切り刻んだ木片を渡そうとしたが、持 ち帰らない子どももいたので意思を尊重して、謝罪して 一礼をした。反省、細い木を数多く切り、子ども達には コースターづくりを簡単に切ることが出来、完成させて あげれば良かったと。子ども達は喜んでくれた。…倒 木後少し自由にさせた。子ども達は触ったり、倒木を剥 がしたりして「切った木は皮が剥がれる。剥がした木は 冷たい。剥がした木はヌルヌルする。木は重い。切っ て木を倒す事ができる。」と言ってくれた。子ども達は 感じてくれた。子ども達が喜んでくれた。それだけでも 甲斐があったと思った。いずれにしても、間伐体験で 「森林のきれいな空気の中で、立木、生木を切る。子ど も達が五感を使って体で感じる」という体験が貴重な体

験だと思った。『ノコギリで立木を切るサックサックという音、ノコギリを握る手に伝わる感触、木がかりした木を全員でヨイッショと綱を引っ張る力、作成に30分以上かけてノコギリを引く、夢中になって「林業体験」をした子ども達は、大人になっていつかきっと山林を振り返り、体で感じた事は忘れない。』と思った。「体験は、絶対間伐だ」と私は思った。

(記 12期 木本 正夫)

◆ 社会科「森林の働き」川崎市立宮崎小学校

日 24年10月26日

場 やどりき水源林

参 小学生182名

✓ L野田⑧、井出①、友谷①、高橋③、高崎④、 斎藤⑥、山崎⑦、小野⑦、武者⑦、渡部⑦、三浦⑧ 松本⑧、黒沢⑧、村井⑨、内野⑨、杉崎⑩、松山⑩

児童182名の大所帯。でも統一の取れた素晴らしい 集団。観察会の始まる直前に話して欲しい内容が手渡 される。内容は「森林を守るための工夫・努力」「森林の 働き」。でも、ゆっくり内容をたしかめる暇もなく、林道コ ース、Bコース、成長の森22,23を回る3コースに別れ 出発する。持っている知識を実物と結びつけて確実な 知識としてもらいたく説明するも、観察はそこそこで説 明したことを全員が一生懸命メモしている。これではと 思い質問を増やしながら実物を観察してもらうように努 力する。

昨年、昼食後に河原の石投げで怪我人が出たので、 今年は河原で遊んでもいいが石を投げないことと学校 で厳しく言われてきたので石を投げる子供全くいなかった。でも、天気良かったので殆どの子供が川に入り 濡れながら昼食後のひと時を楽しんでいた。

(記 8期 野田 重雄)

◆「箱根の森再生プロジェクト」 日立グループ

日 24年10月27日(土)、曇後晴れ

場 21世紀の森

参 150名 (子供24名含む)

スタッフ 日立製作所 情報・通信システム社

1 L 足立④、斉藤⑥、白幡⑦、黒沢⑧、 小沢⑨、村井⑨、飯沢⑨、小林⑨、辻村⑨、 杉崎⑩、上宮田⑪、大塚⑪

21世紀の森の広場にて事務局による開会式及び挨拶に引き続きインストの紹介後、班別されていた間伐4班・森林整備2班・自然観察6班・木工体験1班に分かれて行動し各班共2時間程で開会式広場に集まり昼食が全員に配布される。周辺の色ずき始めた山々を眺めながら食べている顔は今日の行動や活動に満足した気持ちと昨日までの仕事の疲れを癒し解放感に浸かり

生き生きした顔は明日の栄養の糧としているように感じられる、私達インストも参加者の顔を見満足感を味わう、 各班共事故もなく笑顔で帰途についた。

(記 9期 辻村 寿)

◆ 県民参加の森づくり

日 24年10月27日(土)8時40分~14時、曇/睛場 山北町中川(承継分収林)

参 一般県民 108名

財 内海課長、永島様、 看 田嶋様

Ⅰ L戸谷⑥、井出①、友谷①、国分③、島岡③、 鈴木⑥、小野⑦、山崎⑦、阿部⑧、内野⑨、園田⑨、 大澤⑩、真貝⑪、山口⑪、湯浅⑪、渡辺⑫

現地は、急斜面で下枝が払われた27年生の杉林。 統括リーダーからは、急斜面、太い高木、作業グルー プが上下になりうることから、斜面上下方向倒木の厳禁、 チームワーク重視など重点注意がなされたあと、5班1 5グループに分かれて間伐作業実施。

私のグループは若い7名(男4、女3)全員が初めてとのことで一緒に基本的な実技説明と全員の鋸使用経験を心掛けた。太く、足場も悪いため1本を処理。それでも皆で力を合わせての倒木に満足していただけた様子で安心した。ミニ講座はリーダーの「酸素の生成から体への働きの話が朝の森でのウォーキングの有効性」で締められた。全体としては、ハットヒヤリなどが報告されたが大過なく終了、また初めての参加者が多く見られ、森への新たな関心者が増えたのではと、まずはよき活動ができたかと思う。

(記 12期 渡辺 敏幸)

◆ 「水生生物の観察とクラフトワーク」 ボーイスカウト隊

目 24年10月28日9時~14時30分

場やどりき水源林

参 BS 川崎 53 団ボーイスカウト隊10名

(小5~中2:7名、隊役員:3名)

イ 宮本④

[水生生物の採集、観察]

雨天となったので、全員雨具をつけバケツと網を持って、アッチガオ沢出口付近、次いで癒しの森の寄沢 分流に移動して水生生物を無作為に採集した。 水生生物の観察は集会棟構の材木置き場で行った

水生生物の観察は集会棟横の材木置き場で行った。 水源林の機能、寄沢の水と川崎市居住地の上水道との 関係、水生生物と水質環境指標等の説明を行った後、 採集したバケツからバットに移し、さらに各個ピンセット を使って観察ケースにピックアップし、採集された生き ものの観察をした。プラナリア、サワガニ、ヤマアカガ エルやカワゲラ、カゲロウ、ヘビトンボ、カワトンボなど の幼虫が多数採集された。とくにピックアップ中に突然、 カゲロウの幼虫が亜成虫に脱皮したのに遭遇、一同感 動した。

参加者は清流に多様な生物が生息していることに感

心していた。

[クラフトワーク]

午後はクラフト。隊役員の佐藤恭平氏が予め用意されてきたドングリなどの材料を用いてオブジェ(ドングリトトロ) 創りを行った。雨が上がってきたので、集会棟前にウマを並べ、間伐ノコを用いて丸太切りをして先ず台つくり。リーダー(隊役員)の持参された電動キリで、台の思い思いの場所に穴をあけてもらい、それぞれ特長あるオブジェを作り満足の様子だった。

なお、この活動に参加されたボーイスカウト隊の役員 (リーダー)藤巻氏より今回の活動を早速掲載した隊誌 「ボーイ隊ニュース」11月号を送信いただいた。有意 義な活動だった旨の記事であった。

(記 4期 宮本 聴)

◆ ふじの体験の森"やませみ"間伐体験 相模原市立大沼小学校

□ 24年10月30日(火)10時10分~14時50分、晴時々曇

場相模原市藤野

"ふじの体験の森やませみ" (大日野原の森)

参 5年生113名、教員6名

スタッフ やませみ職員 松本 他3名

財 古館様

L松山⑩、国分③、高橋③、島岡③、宮本④、 佐藤⑤、齊藤⑥、小野⑦、塩谷⑦、渡部⑦、 三浦⑧、鈴木⑧、青木⑩

秋の好天の朝、学校からのバスは予定より早く到着したので始動時間を繰り上げて、10時20分はじめの会。道具を付けて"やませみ"から大日野原の森へ移動。11時20分から12班に分かれて間伐作業開始。現場で昼食を挟んで、玉切り、コースター作りなどをして13時30分終了。"やませみ"に戻りグループミーティング、活発な質問に熱が入り所定の時間を少しオーバーしたが14時50分まとめの会をもって終了。

児童たちは直ちに、夕食(カレーライス)の準備に取り 掛かっていた。

(記 10 期 松山 隆治)

略語の説明

日:(平成)年日付、場:場所、

割:参加者、

県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

|財:((公財)かながわトラストみどり財団)

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会·XX様

ニュースレター「しずくちゃん便り」 ホームページは下記URLで見ることができます。 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.htm

かながわの水源環境の 保全・再生をめざして

本誌12月号ページ7「本の紹介」に

村井正孝<9期>

て編者 木平勇吉様 を 大平勇吉 様と誤って載せましたことをお詫び

「お詫びと訂正」

し訂正させて頂きます。

やどりき水源林 ミニガイド

12月のトピックス

今年は遅咲きのジュウガツザクラ (4月と10~12月に2回咲きます)



(寄大橋入口 12月初旬撮影) 1月の水源林

冬の景色もよいものです。うまくす ると雪景色やその上を歩いた動物の 足跡や氷柱を見ることができるかも しれません。

「森の案内人」情報

(12月、1月、2月は休止です。) 3月からは

- ●実施時間:毎週土曜・日曜・ 午前10時・午後1時1~2時間程度
- ●集 合:水源林入口ゲート前
- ●内容:森林インストラクターが自然 観察にご案内します。森林のしくみ 手入れなどについて説明致します。 参加自由、参加費無料
- *10 人以上の団体は事前に下記まで ご連絡ください。
- ●問合せ:(公財) かながわトラスト みどり財団 TEL:045-412-2255

携帯:090-8580-5348 fax:045-412-2300

- ホームページ: http://www.ktm.or.jp
- E-mal:midori@ktm.or.jp
- ◆ やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線 松田駅下車、富士急湘南バス「寄(や どりき) | 行き乗車約25分。バス下車 後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。 寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

動物の冬越し展



日時: 2012年12月1日~ 2013年2月28日 9時~16時30分 入館は16時まで

森のふれあい館 TEL0460-83-6006 神奈川県足柄下郡箱根町箱根381-4 URL http://www.hakone.or.jp/morifure/

◇ 森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集して います。

<広報全般についてのお問い合わせ> 小沢章男まで

Tel: 0467 -52-2191

∓221−0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Mail:s_akasaki-k_instructor@live.jp

【本誌】松本 保

電話連絡先:090-7962-3168 Mail: matsutamo@jcom. home. ne. jp

【別冊】水口俊則(メールアドレス変わりました)

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd. biglobe. ne. jp

【CCで】竹島 明

Mail: 12nahemi0818@kce. biglobe. ne. jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

- ★Happy New Year! 今年も皆様の 益々のご発展をお祈りしています。 私の目標は去年よりも沢山旨いラーメン を食べる事です。
- ★暮れには森林文化部会の有志でや どりき水源林の祠の大掃除をしてきまし た。今年も事故のない活動を山の神祭 では祈念いたしましょう!! (村井)
- ★冬至を迎え柚子湯としゃれて見まし た。昼間の時間が短いとか、一日の終り が何か早い気がしています。 (小沢)
- ★森の生き物たちは、寒に耐え必死に がんばっているのに、我々人間、楽し ちゃいけませんね! 時には我慢・忍耐 です! (水口)
- ★今年古希を迎える年になりましたが ちょいと難病にかかり1年程お休みさせ てもらいます。元気になったら又皆さん と汗を流せることを楽しみに頑張ってき
- ★表紙の紅富士は是非カラ―でご覧く ださい。故郷の言葉で寒(かん)じる朝 に撮影された写真です。

(寒じるは金田一京助さんの辞典には 載っていましたが春彦さんからは載っ ていません。残念です。) (松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方 は、郵便局備付けの郵便振替を利用 してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛ま で購読料年2000円をお振込みくだ さい。振替用紙には、必ず、住所、氏 名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1 年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人: 小沢 章男 事務局: 竹島 明

広報部: 水口俊則 松本 保

鈴木 朗 真貝 勝 鈴木松弘 大塚晴子 村井正孝 徳岡達郎 加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

Mail; a. ozawa@tbz. t-com. ne. jp

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Te1/090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

 $\pm 250 - 0871$ 小田原市下堀 123

〒238-0045

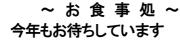
横須賀市東逸見町 3-7

Te1/Fax: 046-825-9281

本年もよろしくお願いします。

山のお帰りに是非お越しください。

山麓の オアシス





小田急 新松田駅 踏み切り際

緑の募金箱協力店